

説教日：2013年9月8日（日）

説教者：花園匡

説教題：「待ち遠しい日曜日」

聖書箇所：出エジプト記 20 章 8—11 節、ヨハネの福音書 5 章 9—18 節

日曜日と聞いて、一般の人々は、何を思い浮かべるでしょうか。休日！とか家でゴロゴロする日だったりとか、とかくお休みの日という認識がほとんどではないでしょうか。

ではわたしたちクリスチャンは、日曜日をどう捉えていますか。教会に行く日ですか。そうですね、クリスチャンと日曜日の関係は、切っても切れませんね。では、皆さん、今朝この教会に向かうとき、どんな気持ちでしたか。朝から気が重く、ゆっくり寝ていたいと思っていたのに、クリスチャンという義務感で教会に来られましたか。それとも、先週から今日を待ちきれず、わくわくして来られましたか。もしくは、毎朝顔を洗うように、習慣としてなんとも思わず、この教会に来られましたか。ひとつ言える事は、どういう思いでこの教会に来られたとしても、今朝、みなさんはこうして教会に来て礼拝をささげていること、そしてそれは神様が喜んでおられることをどうぞ覚えていてください。もちろん、日々の思いをめぐらしたりせず、集中し、心から礼拝ができることが一番ですが。

さて、「私たちクリスチャンは日曜日をどう捉えているのか」という質問を少し掘り下げてみていきたいと思えます。安息日といえば、ユダヤ人が安息日をかたくなに守り続けていることは、みなさんも少しばかり聞きかじったり、知っているかもしれせん。まず、ユダヤ人たちつまりイスラエルの人々がどうして、安息日を守るようになったのかをご説明します。

安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。

六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。

しかし七日目は、あなたの神、主の安息日である。あなたはどんな仕事もしてはならない。—あなたも、あなたの息子、娘、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、また、あなたの町囲みの中にいる在留異国人も—それは主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された。

出エジプト記 (20:8-11)

実は、この戒め、出エジプト記 20 章 2 節を見てもわかるように、エジプトに奴隷として捕らえられていたイスラエルの民を解放し、そしてこの戒めを与えたのです。彼らは奴隷としてパロに仕え、休みなく働かされていましたから、この戒めは彼らの生活を劇的に変えました。7 日のうちの 1 日を休みなさいと神様が命令されたのです。

大切なことを忘れないようにするために、その日は休んで、聖なる日にしなさいという戒めでした。

大切なことというのは、

1. 神の創造の御業（創世記 2:2）
2. エジプトでの奴隷生活からの解放（申命記 5:15）
3. 人には安息が必要であること（出エジプト記 31:12-18）

でした。

ところが、彼らは本質を見失っていきます。安息日を守るための細則（細かいルール）を決め、それを守ることが安息日を守ることになるのだと考え始め、とりもなおさず、その細則に捕らわれてしまいます。ユダヤ教の經典にミシュナーという本があり、そのなかのシャバット篇では、安息日にはしてはならない労働リストが 39 も挙げられているそうです。その中に「どんなものでも運搬してはならない」と記されています。本日の聖書箇所、安息日の律法を破ったとして、ユダヤ教の指導者が問題にしたのは、安息日に人を癒したのではなく、床を取り上げて、運んでいったことです。つまり、十戒の第 4 戒をイエス様が破ったことではなく、当時のユダヤ教で決めた安息日の守り方とイエス様の言動が衝突したことになるわけです。彼らは、字句にこだわり、本来の大切にすべきことを忘れてしまっているわけです。どうして神様が安息日を設定のかという本質でなく、どうしたら安息日の律法を守っていけるかということばかりに捕らわれていたのです。こうなってしまう人々にイエス様はこう言われました。

また言われた。「安息日は人間のために設けられたのです。人間が安息日のために造られたのではありません。

マルコの福音書（2:27）

もともと神様が天地を創造され、7 日目に創造の御業を休まれたところからくるこの安息日。神様が休まれたとはどういうことかを見ていく必要があります。

まずは、神様の創造の御業の素晴らしさをビデオで見てもらいましょう。

6 日で創造をなし終えられ、7 日目に休まれたのは、あくまでも創造の御業です。ですが、それに続く摂理の御業は、休まれることなく、続けておられます。摂理の御業とは、この世界を保持し、支配する働きのことです。

イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです。」

ヨハネの福音書（5:17）

神様が今日までずっと働いておられるのは、ただ単に摂理の働きだけをさすのではないのです。私たち人間が肉体的にも霊的にも本当の憩いを得られるのは、神様による以外はないということをお教えるものでした。旧約時代、7日のうちの1日を休みなさいという形で示されました。新共同訳だと分かりやすいので、出エジプト記 20 章 8 節はこちらを引用します。

安息日を心に留め、これを聖別せよ。

出エジプト記 (20:8)

その 1 日を聖別し、肉体的な休息を得るのだけでなく、霊的にも神様とつながって、清められ、満たされよというのです。

もっと言えば、旧約時代の安息日自体に、意味があるのではなく、それが指し示している本当のものに意味があると聖書は言うのです。

こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは、祭りや新月や安息日のことについて、だれにもあなたがたを批評させてはなりません。これらは、次に来るものの影であって、本体はキリストにあるのです。

コロサイ人への手紙 (2:16,17)

安息日は影であって、本体はキリストにあるのだと言われました。つまり今日のわれわれクリスチャンは、1 週間に 1 日どころか、どんなときも主イエスキリストの中に本当の憩いを得ることができるのです。その本当の憩いは、イエスキリストによって成し遂げられた救いに基づくものです。私たちのためにイエス様がしてくださったことを覚え、復活され、福音を完成された日曜日を主の日として礼拝するのが、わたしたちクリスチャンです。われわれのよりどころは、イエス様。そこにつながっていること、そして主とあがめ、礼拝を心からささげることにあります。先ほどのマルコの福音書は、かぎかっこが終わっていません。実は、28 章まで続いているのですが、

また言われた。「安息日は人間のために設けられたのです。人間が安息日のために造られたのではなく、人の子は安息日の主です。」

マルコの福音書 (2:27,28)

これで、主日礼拝と呼ぶ理由が分かりましたね。私たちクリスチャンはイエスキリストによって、救われ、生まれ変わった者として、今も働いてくださっているイエス様こそが復活の主であるという証をしていかねばなりません。今日この礼拝で、私たちは真の安息を得、主を心からたたえようではありませんか。神様は私たちが持っているすべてをささげなさいとはおっしゃっていません。1 週間は 168 時間あります。その 1 時間半この日曜日の朝、主のために聖別しておくことは、大変なことですか。1 週間のピークを日曜日に持ってくる人生が歩めるよう、私たちの思いを変えてもらいましょう。